

# 昭和61年度アカウニ増養殖試験

小 島 博 ・ 森 啓 介

前年度に引き続いて、阿南市橘湾においてアカウニの養殖試験を実施した。また、当オアカウニの住み場の調査等を実施した。

## 1. 材料及び方法

アカウニの養殖試験は前年度に引き続いて、阿南市橘湾小勝島白浜地先で行った。材料及び方法は前年度報告<sup>1)</sup>の通りである。調査は昭和61年5月17日、8月9日及び9月30日に58年産(3才)、59年産(2才)の殻径を測定した。9月30日の調査には生殖腺指数(生殖腺重量/体重×100)も調査した。

天然産当オアカウニの住み場調査を7月30日に日和佐町えびす洞地先で、また、8月9日に橘湾荒先地先でスキューバ潜水により観察、採集し、殻径を測定後、再び放流した。

12月25日に由岐町阿部鹿の首地先北側へ殻径20～65mmの人工採苗アカウニ582個を水深6mの岩礁域及び水深16mの中、大型転石地へ放流した。

なお、橘湾での養殖試験、天然産稚ウニの採集に際して、橘町漁協海士会谷口成司、神野 順の両氏にご協力をいただいた。併せて深謝の意を表する。

## 2. 結 果

アカウニの養殖試験では、生後2才6ヶ月の59%が、2才9ヶ月では86%がそれぞれ出荷サイズの50mmに達した。養殖中の殻径の成長を表1に示した。9月30日に測定した生殖腺指数は58年産(2才11ヶ月)が13.8、59年産(1才11ヶ月)が10.8であった。58年産については小型群について調査したものである。

表1 橘湾における養殖アカウニの殻径の成長

| 調査年月日 | 58年産アカウニ       | 59年産アカウニ      |
|-------|----------------|---------------|
| 5月17日 | 40～75(54±10)mm | 24～42(34±4)mm |
| 8月9日  | 46～77(60±9)    | 31～48(39±4)   |
| 9月30日 | 50～54(52±1.5)  | 39～48(43±4)   |

( )内は平均殻径と標準偏差

天然産アカウニの調査結果は表2に示す通りであっ

表2 天然産若齢アカウニの採集結果

| 調査月日  | 調査場所     | 採集水深<br>(m) | アカウニの殻径<br>(mm) |
|-------|----------|-------------|-----------------|
| 7月30日 | 日和佐町えびす洞 | 6           | 17, 17, 32      |
|       |          | 12          | 18              |
| 8月9日  | 阿南市橘湾荒崎  | 1～3         | 19, 35          |

た。7月30日に日和佐町地先の水深6～12mで殻径17～18mmの3個体及び8月9日に橘湾荒崎地先で殻径19mmの小型アカウニを採集した。また、同じ調査で、日和和佐町地先では殻径32mm、橘湾では殻径35mmのアカウニを採集した。日和佐町地先の水深6mで採集した殻径17mmの個体はアラメ葉(流れた葉)に付着していた。他のウニは何れも径40～50cmの転石下に見出された。

12月25日に由岐町阿部地先へ放流した人工種苗アカウニの殻径組成を表3に示した。

表3 阿部地先へ放流したアカウニの殻径組成

| 殻 径 mm  | 水 深 6 m | 水 深 16 m |
|---------|---------|----------|
| 15～     | 3       | 3        |
| 20      | 31      | 18       |
| 25      | 39      | 50       |
| 30      | 46      | 59       |
| 35      | 45      | 52       |
| 40      | 32      | 34       |
| 45      | 43      | 40       |
| 50      | 24      | 18       |
| 55      | 15      | 9        |
| 60      | 10      | 7        |
| 65      | 1       | 2        |
| 70      | 1       |          |
| 放 流 数 個 | 290     | 292      |
| 平均殻径 mm | 39      | 38       |

### 3. 考 察

12月に人工的に採苗したアカウニは4月（生後5ヶ月）に殻径10mmから養殖を開始した場合、出荷サイズである50mmには、早いものでは満2才頃に達するが、多くは2才9ヶ月（養殖期間は2年4ヶ月）かかることが判った。この間の生残率を調査していないが、網換え後に若干死亡するウニが見られた程度で、生残率はかなり高いことが想定される。また、低水温期には陸草でも飼育可能なこと<sup>2)</sup>から、養殖場所さえ確保出来れば、高齢者の副業として有望なことが判った。アカウニの養殖試験については本年度で終了する。

当才アカウニの住み場調査では、予想していたよりもアカウニの発見数が少なかった。若齢アカウニは、径が40～50cmの転石下から発見され、こうした場所に

住み場を形成することが推察された。日和佐町地先では、流れたアラメ葉片に付着した稚ウニが見られたが、流れ藻が餌として重要なことは言うまでもないが、流れ藻が稚ウニを深所から浅所へ運ぶことがあることも示唆される。夏場、殻径が20mm前後のものは当才、35mm前後のものは1才と推察される。

阿部地先へ放流したアカウニについては、成長、移動などについて来年度に調査する予定である。

### 4. 参考文献

- 1) 小島 博・森 哲介：アカウニの増養殖試験，昭和60年度徳島水試事報，78－79（1987）。
- 2) 浜崎 晃・宮崎一誠・小島 博：アカウニ種苗生産試験－Ⅱ，昭和59年度徳島水試事報，45－49（1986）。